ART

15

Taito-ku
Art Project
Archive
2008→2017

平成27年度

企画

- きむらとしろうじんじん「野点」in山谷
- 浅草こねこねんど！浅草をクレイアニメにしちゃおう！
- 戦争画STUDIES展
- 生活と表現

短評

社会性の強い作品が印象的だった27年度。現代アートの作家たちが戦争画についての学びを深め、それをもとに新たなる作品を制作した『戦争画STUDIES展』では、社会性を持って表現活動をしようという若いアーティストの熱意を感じることができました。また『生活と表現』では日常をキーワードに、人の生活に紛れる創造性や日々の風景にアプローチした作品を展示。社会とアートの密接性を改めて感じた年となりました。

Title
きむらとしろうじんじん
「野点」in山谷

主催者
一般社団法人谷中のおかって

開催期間
2015.08.08、10.18

会場
玉姫稲荷神社

一風変わった陶芸お抹茶屋台がやってきます。

1995年からアーティストきむらとしろうじんじんが継続的に展開している陶芸お抹茶屋台「野点」を、生活困窮者や路上生活経験者などの問題を多く抱える台東区の清川周辺エリア（山谷）で開催。それにより「野点」を介して地域内外の人々の協働の場をつくりだすこと、共に路上の文化を更新することを目的とし、実施しました。8月8日は説明会とお散歩会を実施し、ボランティアスタッフ希望者や地域の方々などへ向けた企画説明と、まちを歩いてアーティストと一緒に開催場所を探しました。10月18日は「野点」を実施しました。きむらとしろうじんじんの「野点」とは、大小2台のリヤカーに、陶芸釜や素焼きのお茶碗を楽しむ「陶芸お抹茶屋台」です。お客さんはその場でお茶碗に絵付けをし、楽焼きという方法で40分程焼きあげられた自作のお茶碗でお茶を楽しむことができます。ドラァグクイーンのいで立ちで屋台とともにまちに出没し、茶碗を焼いて抹茶を点てるその姿に、通りすがりの人も思わず足を止め、非日常のひとときを味わうことが出来ます。

【開催状況】

説明会では、きむらとしろうじんじんが「野点」の記録写真や映像を紹介しながら、その醍醐味やどのような場所で開催してきたのか、当日はどのような場になるのかなどを説明しました。また、実際に絵付けをするお茶碗のサンプルや焼き上がりの見本などを手に取りながら「野点」のイメージを膨らませました。説明会後のお散歩会では、山谷で活動をしているNPO法人山友会の方々にまちを紹介していただきました。参加者とともに「野点」の風景を想像しながらまちを眺め、開催場所を探しました。山谷をよく知る人から初めて訪れる人などさまざまで、アーティストと参加者の交流だけでなく、参加者同士の交流を図る貴重な場にもなりました。そしてイベント本番、玉姫稲荷神社前の道路を会場に、一日限りの「陶芸お抹茶屋台」を開催しました。会場の準備が整うと、きむらとしろうじんじんの登場です。参加者は、さまざまな形をした素焼きのお茶碗から好きなものを選び、絵付けをします。絵付けが終わったお茶碗は、リヤカーに積まれた特注の窯で焼きあげられ、焼きあがったお茶碗はボランティアスタッフの手によって磨かれ完成です。自分たちで絵付けしたお茶碗が目の前で仕上がっていく様子を、通りすがりの人も興味津々で見守っていたのが印象的でした。お茶碗が焼きあがるまでの時間は、「谷中のおかって」メンバーによる「カラオケ屋台」や、NPO法人山友会による屋台・きむらとしろうじんじんとの記念撮影など、思い思いに過ごせる場を用意することで、人々の交流を生むことができました。

当日の様子

企画者からのコメント

初めて企画を実施するエリアだったため、地域とのつながりがほぼない状況でした。しかし支援制度を受けたことにより、地域の方々の応援や広報などの協力を得ることができました。会場交渉などもスムーズに行うことができ、企画の成功につながりました。現在も同じ会場で「野点」を継続展開しています。ささやかながら個々人が独自の出見世やおもてなしを考案、実施するなど、徐々に協働する人々の関わり方も多様になってきています。背景や立場を超えてさまざまな人が集い、年に一度路上でのひと時を味わう機会になっています。

当日の様子

当日の様子

チラシ

Title
浅草こねこねんど！
浅草をクレイアニメにしちゃおう！

主催者
山田優子

開催期間
2015.10.31—11.01、2016.01.30

会場
浅草文化観光センター

浅草文化観光センター

新しい浅草のキャラクターを作ってみよう

『浅草こねこねんど！』とは、子どもたちが浅草にちなんだオリジナルのキャラクターを考え、クレイアニメを制作するワークショップと、プロのクレイアニメ作家が子どもたちのつくったキャラクターを使い、浅草を舞台にしたクレイアニメーションのPRビデオを制作・披露する上映会です。クレイアニメは、粘土で作った人形などの形を少しずつ変えながら、カメラで一枚一枚撮影した写真をつなげて動画にすることで、人形が動いているように見せる映像表現です。大人の目線とは違った子どもたちのアイデアを生かして、浅草の魅力を紹介する映像作品を作れればと考え、今回の企画を実施しました。

【開催状況】

PRビデオの制作に向け、小学生を対象としたオリジナルのクレイアニメを制作するワークショップを行いました。クレイアニメの制作を始める前にオリジナルのキャラクターのテーマ・素材を探すため、雷門・仲見世・浅草寺本堂・五重塔といった浅草の名所を見学するお散歩会を実施。気になる風景やモチーフを撮影し、どのようなキャラクターにするかを考えてもらいました。お散歩会終了後、クレイアニメ制作のために必要な絵コンテの作成・粘土の扱い方などを説明し、いよいよオリジナルのクレイアニメ作品の制作です。まずはオリジナルのキャラクターを絵コンテにおこし、ストーリーやキャラクターの動かし方を考えます。アイデアがまとまったら、粘土での造形作業。スタッフから、粘土の伸ばし方・色の混ぜ方などを習いながら、色とりどりの粘土を使い、自分のイメージしたキャラクターを立体化していく作業には、子どもたちだけでなく一緒に参加した保護者の方も熱心に取り組んでいたのが印象的でした。キャラクターの制作後は、絵コンテの内容に沿って専用機材での撮影作業を体験してもらいました。最初はスタッフに手伝ってもらいながらでしたが、慣れてくると背景を変える・粘土を動かすなど、自分の作品のイメージに近づけるための作業を自主的に進めていました。ワークショップの最後には、参加者の前で制作した作品のテーマや内容・作業をした感想と一緒に作品を披露しました。2日間のワークショップでは、プロのクレイアニメ作家も驚くような独創的でおもしろい計8つの個性豊かな作品が完成しました。上映会では、ワークショップで子どもたちが作ったキャラクターを使い仕上げた、浅草のPRビデオ上映のほか、『浅草こねこねんど！』のメイキング解説・クレイアニメの制作実演を披露する上映会を、プロモーションビデオ内にも登場する雷門や浅草寺のすぐ近くにある浅草文化観光センターで開催。当日は、見学に来ていたワークショップの参加者にも登場してもらいPRビデオの感想を発表してもらいました。

ワークショップ（お散歩）

企画者からのコメント

浅草に住む人々と深いつながりが出来ました。アドバイザーや区の皆様からアドバイスをいただく事でより良い結果を得ることが出来ました。現在もこの時の経験を活かして台東区だけでなく他の区でも活動を広げています。企画を終えた後も、WSに参加していただいた子どもたちとも繋がり今でも自分の開催したワークショップに参加していただいています。現在は練馬区で絵本を原作としたクレイアニメーションを制作し、作家活動とともに町おこしの活動に力を入れております。

ワークショップ

上映会

ワークショップチラシ

Title
戦争画STUDIES展

主催者
SUNSHINE NETWORK Japan
（「戦争画STUDIES展」実行委員会）

開催期間
2015.12.09—20

会場
東京都美術館 ギャラリーB

様々な立場から「戦争画」について重ねたリサーチ

「戦争画」と呼ばれる絵があります。物語を伝えたり、戦いに挑む強い気持ちを奮い立たせたりする目的でつくられますが、描き手はそこに芸術のはたらきも求めて腕をふるうでしょう。かつて大日本帝国において軍の要請のもとに描かれた「戦争画」は、惨たらしい戦争を推し進めることに力を貸したという理由で、芸術としては扱いにくいとされていました。そんな「戦争画」について、一年をかけて作家の視点で研究者や人々と共に調べた成果を、コンテンポラリーアートで表現します。

【開催状況】

東京都美術館という戦争画とゆかりの深い場所で、若い世代の作家が中心となってその歴史を振り返りました。様々なプロジェクトや勉強会を展開し、幅広い年齢層の人々が戦争画を考えるきっかけをもたらしました。美術の枠にとどまらず日本の戦前・戦中・戦後史や、ジェンダーの問題、上野公園の特殊性など、多角的に興味を広げました。参加者は以下の通りです。

◉笹川治子…藤田嗣治の「アッツ島玉砕」と同じサイズの光を壁に投影し、背面に「戦場」と「デモ行進」をバックにしてセルフィーを撮影できるスポットを設置。また、アッツ島上陸ドキュメンタリーを捏造し、実際に兵士が着用したとされる軍服をおいて虚実を混在させました。その他現代の戦争画と捉えられるものを記録画として展示。

◉村田真…東京国立近代美術館が所蔵する153点の戦争記録画がもつ威厳を抜き取ってしまい「かわいい」と思えるほど小さいサイズに模写。

◉CAMP（井上文雄）…会期前から戦争画をテーマとしたイベントを企画し、展示期間中には美術館のアートラウンジで話し合うための13個の現代テーマを設定し資料を配布。◉豊島康子…和紙を用いて、美術家や兵士を含めた渡航者の足跡を一望できる地図を描きだしました。渡航者が集中する地点は文字数や短冊の長さによって強調され、時間の重なりを認識できるようにしました。

◉飯山由貴…2冊のスクラップブックを入手し、そこに含まれていた「とある空白の期間」を飯山自身の手によって埋める作業を行いました。また、福岡の旅館で発見された戦争にまつわる古い絵画を取材した映像と朝鮮戦争時に米兵が撮影した写真スライドを投影することで、目線の異なる戦争画を提示。

◉百瀬文…戦中にも巻き起こった「同調圧力」をキーワードに、旗を振るという動作を人々がどのように受け入れていくのかをクラブという現代のシチュエーションに置き換えて映像作品で発表。

◉BARBARA DARLINg…作品を取り下げざるをえなかったことをうかがわせるキャプションの掲示のほか、モデルの身体に「アートになにが出来るのか」とペイントして立たせるパフォーマンス作品を置きました。キュレーターも務めました。

◉辻耕…戦中に作戦記録画を描いた画家である清水登之が、出兵した息子の肖像画「育夫像」を描いた背景について詳細にリサーチし、辻による「育夫像」の模写と清水による実物を並べて陳列。

展示室の様子

企画者からのコメント

アドバイザーの方々に鑑賞者への配慮についての指摘や、来場者と意見を述べあえるイベントにするための工夫、チラシの作成方法などの助言を頂きました。展覧会以前から連続して開催したトークイベントなどの文字起こしを行い、関連した記録を網羅したカタログを制作しました（2017年5月発行）。参加作家は「戦争画」に限らずそれぞれの視座で活動を継続しています。

展示室の様子

展示室の様子

PR用名刺

Title
生活と表現

主催者
一般社団法人ノマドプロダクション

開催期間【平成27年度】
2015.12.12、2016.01.31、03.03—25

開催期間【平成28年度】
2016.09.24、10.15—16、2017.01.21—02.05

会場【平成27/28年度】
ご近所・ギャラリー吾郎、燕湯、MIRROR、いいオフィス

燕湯

モノつくる人々や、かたちに残りにくいコトづくりの表現の今に注目していくプロジェクト

ノマドプロダクションは、各地で行われている芸術祭やアートプロジェクトなどに、様々な立場で関わりながら「地域とアート」について考える機会をいただく一方で、御徒町エリアに拠点を置きつつも、この地域に関わることもなく過ごしてきました。ビルに囲まれた、典型的な東京の都心で地域に関わること、この地域で可能なアート活動とはどのようなものなのかを、様々な地域で活動するアーティストや、そこに住まう方々の話を聞くうちに、「地域とアート」という少し身構えてしまうようなキーワードを、「生活と表現」という等身大の言葉に置き換え、モノつくる人々の姿や、かたちに残りにくいコトづくりの表現の今に注目していくプロジェクトとして、2015年にスタートを切りました。

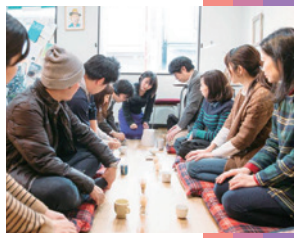
【開催状況】

まずは2015年度、「トーク&アーカイブ」の紹介からです。第1弾の「現代美術作家たちの試み」では、日頃の活動内容の報告や台東区でのアートプログラムの可能性を語りました。第2弾の「集団活動の試み」では給湯流茶道部・スイッチ総研をゲストに招き、実際にパフォーマンスを披露。第3弾・4弾は、プロジェクトに参加しているアーティスト谷山恭子・新里碧によるトークイベントを開催。「エキシビション&フェスティバル」では、「ご近所♡ギャラリー吾郎」を拠点に展示やイベントを開催しました。◉池田光宏「BGA in 御徒町」…お店に何気なく飾られている絵画などの作品(Back Ground Art)を展示。◉ウエハラヨシハル「春一番」…銭湯「燕湯」入り口に、焼き物でつくったひな人形を展示。◉谷山恭子「都市に生息するアーティスト達」…東京都という都市に拠点を持ち、時には各地に移動しながら表現活動に携わる人たちの生活と創作環境を明らかにしながら、わたしたちの日常を見つめなおすプロジェクトの展示。◉新里碧「ことば宝石商会」…宝飾問屋街がある御徒町エリアにある「ことば」を集めて新たに作った宝石の展示。◉増田拓史「わたしとは、あのね」…東区に生活する人々の取材をもとに、それぞれの人生を紡いだ短編物語を制作。完成した物語を読み解く読書会も開催。◉給湯流茶道&狂言部「御徒町の宝石商がつむいできたエピソードを狂言にしてみた！茶会」…伝統文化・茶道をサラリーマン視点で新解釈する茶道ユニット「給湯流茶道」と、「給湯流狂言部」が、お茶会と御徒町の宝石商を題材にした狂言イベントを開催。2016年度は、御徒町界隈を歩き、お互いに撮影した写真を披露し、出会った風景を共有する「川瀬一絵 まち歩きワークショップ」。そして、2015年度に大好評だったワークショップの第2弾となった「新里碧 ことば宝石商会ワークショップ」を開催。◉川瀬一絵 写真展「浮かぶ雲」…空間を生かした風景写真の展示。◉スイッチ総研「上野御徒町燕湯スイッチ」…スイッチ総研による、初の銭湯公演を燕湯で開催。◉トーク&アーカイブ…銭湯×アートプロジェクト「上野御徒町燕湯スイッチ」「曳舟湯怪」から見えた、銭湯×アートプロジェクトの舞台裏や魅力を語るもの。

川瀬一絵ワークショップ

企画者からのコメント

会場の交渉や、近隣での活動周知を行う際に、理解を得やすかった点、区報の情報掲載で足を運んでくださった方がいた点などがよかったです。企画をきっかけにお付き合いのできたご近所・ギャラリー吾郎さんで、時おり勉強会などの催しを行っています。2017年より活動拠点が文京区に移ってしまいまいたが、また同エリアでの活動をしていきたいです。



給湯流茶道&狂言部「茶会」

新里碧

チラシ